

秋の鶏の飼養管理

岩本敏雄

10月も半ばを過ぎますと朝晩は寒さを感じるようになりますが、10月11月、すなわち晩秋期の鶏の飼養管理の要点について述べてみることにします。

先ず、飼料の点であります。本年春餌付しました雛は、そろそろ産卵を始めたもの、或は大部分もう産卵を開始しているもの等いろいろあると思われませんが今まで蛋白質の比較的低い大雛飼料を与えていたものは、産卵鶏用飼料に切替なければいけません。この切替時期は、大体白色レグホーン種では150日から160日令であります。この日令だけにこだわらないで鶏の全体の内4割～5割のものが、産卵を開始した時期が適当であります。

産卵鶏用の飼料は穀類を多めにしてカロリーが不足しないように心がけます。2才鶏以上の古い鶏は換羽に入り休産するものが多くなり、餌のたべる量は少なくなります。実際は新しい羽を作るためにたくさんのエネルギーと蛋白質を必要としますから、良質の飼料をなるべくたくさん食べさせるよう注意します。

次に、点灯飼育ですが、鶏の産卵は日照時間と重要な関係があり、秋から冬にかけて、日照時間が短くなりますと、2才鶏以上の古い鶏では換羽（けがえ）するものができて産卵率が低下してきます。一方、この時期は1年の内で卵の価格も比較的高い時期でありますから、この時期に点灯して光を人工的に供給し産卵を促進させますことは、養鶏家にとりまして非常に有利な方法であります。点灯の最も大きな目的は、秋から冬にかけて短くなった日照時間を人工的に補給することでありまして、これは光線が脳下垂体を刺激して性腺刺激ホルモンの分泌を促して産卵促進させるためであります。

この方法は夜明前、又は夕方日没後電灯をつけて日照時間と電灯をつける時間を合わせて、1日の明るい時間が13～14時間になるようにします。電球の明るさは16平方メートル（約5坪）当たり40ワット1コ位の割合で電灯の高さは床から180センチ（約6尺）くらい位置に取付けて、トマリ木、エサ箱、水飲

器など鶏舎全体に照明できるようにしてやります。

この場合電球の上に反射用の傘をつけますと、一層光が有効に利用されますから是非つきたいものです。

点灯中の鶏は特別な管理はいりませんが、点灯時間は規則正しくすること、産卵率が上昇してきますから、飼料中の蛋白質や無機物、ビタミン等が不足しないように良質な飼料と青菜を十分与えてください。

次に、衛生管理の点であります。鶏の若雌は他の古い鶏に比べますと内部寄生虫、なかでも蛔虫の寄生率が高く、特にこれからの寒さにかけて産卵の支障となり易いものでありますから、この寄生虫を取除き鶏の負担を軽くする必要があります。なるべく寒くならない内に蛔虫駆除をしておきましょう。これに使う駆虫剤としては、ピペラジン剤、フェノチアジン剤等が主に使われます。

気温の激変、雨天などかくこの季節は暖かかったり寒かったりしますが、この時期にはよく一般にいわれるループが発生します。この病気は一種の感冒で、一日の温差の大きい時期、つまり、10月、11月のように日中比較的暖く、夜間又は夜明頃急に冷え込むような季節や、鶏舎の中の換気悪く空気が汚れているような場合、この病気が発生し易くなります。この病気にかかると非常に早く周囲の鶏に感染して産卵率は悪くなり、鶏の鼻から粘液が出たり鼻の周囲が黒くなり羽装が汚れてきます。

このループの予防対策としては、単位面積当りの羽数をなるべく少なくすることです。しかし、これにも経済的にみて限度がありますから、3.3平方メートル（1坪）当たり、10羽程度とします。発病した鶏に対しては、ペニシリン2万～3万単位を筋肉内注射して、その一群の鶏に対してサルファ剤、抗生物質等を飲料水に入れて自由に飲ませます。

雛の間平飼いの飼育をしていた鶏で将来バッテリーやゲージに収容する予定の鶏は、産卵を開始する1カ月前までには、産卵鶏用のバッテリーゲージに収

岡山畜産便り 1960.10

容しましょう。産卵を開始してから収容しますと休産する鶏もあります。この場合バタリーやゲージは汚物を取除いて、完全に消毒してから鶏を入れて下さい。

平飼いの場合も同様に鶏舎はよく消毒してから鶏を入れて、産卵箱は4羽～5羽に対して1コの割合で準備して不足しないことと、エサ箱も全部の鶏が一度に食べられるよう、1羽当り21センチ程度の割合で作ってやりましょう。

夏の間には暑さ防止に作ったヨシズ等の日覆いは早目に取除いたり、鶏舎周囲に植えてある日陰樹は適当に枝打ちして鶏舎の中を明るくするようつとめて下さい。

緑餌は鶏にとって大切なことは云うまでもありませんが、冬期間の緑餌としましていもづるをサイロに詰めて貯蔵するのも一つの方法であります。いもづるは10月の下旬になりますと繊維が硬くなり、

栄養の点でも嗜好の点でも価値が少なくなりますから、なるべく早目に刈取ってサイロに詰込んで下さい。

成鶏300羽の冬期3カ月間の緑餌をサイレージでまかなうとしますと、約1,000キログラム位必要でありますから、サイロに詰込む際などの損耗を見積りますと、約1,200～1,300キログラム程の生のイモヅルを準備しなければいけません。出来上がったサイレージは1日1羽当り40グラム前後給与したらよいと思います。